

令和6年度 江戸川区立上小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎よく考える子 ◎進んで働く子	◎思いやりのある子 ◎体力のある子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	魅力ある学校づくり～行きたい学校・帰りたい家・住みたい町～ 「あなたがだいじ あいてもだいじ」（自己有用感の確立と多様性の尊重、人・学校・町への愛着を大切にする学校） 【人権意識をもち、自分のよさを理解すると共に、友達とのよさも認める子】 【コミュニケーション能力をもち、自分の思いや考えを表現する子】 【常に創意工夫をし、児童の資質や能力を伸ばす教育を展開しようと学び続ける教師】
前年度までの本校の現状	成果	○児童が毎日学校に楽しく通うことができている。 ○ICT機器（児童の学習用タブレット端末を含む）活用と授業方法の工夫。 ○基礎学力定着につながる指導の充実と学習規律の向上。	課題	○主体的に学ぶ力、考える力のさらなる育成 ○運動の日常化 ○特別支援教育の充実

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学習の基礎・基本の確実な習得に向けて学力向上委員会を中心とした組織的な取組の実施・充実と授業改善の推進	・校内研究を軸とした学習指導の流れの確立 ・校内補習「のびのびタイム」の実施 ・放課後補習教室の有効活用	・年間6回の授業研究、2月教育課題実践推進校での発表までの授業実践 ・月1回、のびのびタイムの実施 ・児童アンケートにおいて、80％以上が学力を高めようとしていると回答 ・学習診断シートでの各学年の正答率70％以上	B	B	B	○校内研究授業（特別活動）において指導の在り方を共有し、実践することができた。 ●基礎・基本の習得に向けた復習の時間を設けたが、より確実な理解につなげる手立てが必要であった。	B	・丁寧に指導をしていただいている。学習に苦手意識をもっている児童への学力向上をお願いしたい。	B	○校内研究において、児童の主体的な取組を進めることができた。考える力の育成に重点をおいた授業改善ができた。 ●学力向上委員会の組織としての具体的な手立てが実行できていなかった。放課後や業間での個別学習の時間をより効率的・効果的に進める必要があった。	B	・自分の考えを伝え合う学習が大切である。今年度の研究の成果を大事にしていきながら、学力の向上につなげてほしい。	・全国、区の学力調査を分析し、学力向上委員会を中心とした組織的な取組を推進していく。
	○ICTを活用した更なる学習の推進	・タブレット端末を活用した個に応じた学習の実施 ・メディアリテラシー教育の実施	・毎週、ミライシード（ドリルパーク）を使った個に応じた学習の実施 ・年3回、ICT支援員による校内研修の実施	A	A	B	○ICT研修の機会を設け、タブレット端末の活用について共有することができた。 ●学年ごと取組に差が出てしまった。	B	・インターネットの使い方や使用時間など、ルールを守って使っていくことが大切だと思います。	A	○ミライシード、Teams、PowerPointや、Padletなど新しい機能を使っての学習を進めることができた。 ●操作技能の更なる向上、タブレット端末の使用の約束を確実な理解が必要である。	A	・インターネットの正しい使い方を引き続き指導していただき、学習に生かして欲しい。	・GiGAスクール構想の基、一人1台端末のさらなる活用と教員研修を充実させる。
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートを活用した探究的な学習活動の実施 ・図書館巡回職員、図書ボランティアとの連携	・年1回、読書活動を通じた学年ごとの探究的な学習活動の実施 ・年8回の読み聞かせ活動の実施	C	B	C	○継続的な読み聞かせの時間や読書活動を進めることができた。 ●読書科のねらいや推進、探究的な学習活動にまでは至らない所があった。	C	・静かに本を読む習慣はとても大切なので、学校の中でも読書の習慣がついていけるとよい。	B	○図書ボランティアとの連携や読み聞かせの時間の推進ができた。 ●読書科ノートを基にした探究的な学習活動を計画的に行う必要がある。	B	・読書の習慣が身に付いていくことが大切である。そのための取組を推進してほしい。	・読書科推進リーダーを中心とした組織的な学びの計画を立てて推進していく。
体力の向上	○運動意欲の向上、体力や健康に関心をもち、高めようとする態度の育成	・ICTを活用した、めあて学習の実施 ・フレイルーム活用 ・外部水泳施設による水泳指導の実施	・児童アンケートにおいて、80％以上が、運動への関心に対して肯定的な回答	B	A	B	○外部水泳施設（ト・ライフ）での計画的な水泳指導を実施することができた。 ●児童がめあての達成に向けて学習に取組むための手立てが必要であった。	B	・校庭がない（せまい）状況なので、工夫して運動できる環境づくりを進めてほしい。	A	○児童アンケートでは、84％の児童が運動に対しての肯定的な回答をすることができた。 ○体力テストにおいて区平均より2.1ポイント高い結果となった。 ●運動環境が制限された中でのさらなる計画的な取組が必要である。	A	・校庭がない中で、子供たちは頑張っている。これから先さらに制限されていくので、さらなる工夫をしてほしい。	・運動の機会を計画的に立てるとともに、どのような運動（遊び）をしていくのかを体力向上委員会を中心に考え、実行していく。
	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	・なわ跳びウィーク、運動遊びでの運動時間の確保 ・体力カルテによる現状把握と目標の設定、動画の視聴	・80％以上の児童が校内なわ跳びコンテストに参加 ・タブレット端末による数値の入力、ポイント動画の視聴	C	B	C	●なわ跳びウィークでなわ跳びに取り組む姿はあったが、十分な時間や場の確保が難しい状況があった。 ●より意欲を高める手立てが必要だった。	C	・なわ跳びは手軽にできる運動なので、積極的に取り組んでほしい。	B	○なわ跳びに対して、運動委員会の企画を取り入れた活動ができた。 ●なわ跳びコンテストへの参加やタブレット端末の活用などが不十分であった。	B	・なわ跳びは個人でも集団でもできる、楽しみながら個々の体力を高められるように計画する。	・なわ跳びウィークの取組内容を考え、楽しみながら個々の体力を高められるように計画する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室環境のユニバーサルデザイン化 ・巡回指導教員、特別支援専門員、日本語指導教員との連携	・児童学級担任と巡回指導教員との振り回りの実施 ・毎月特別支援コーディネーターと専門員の打ち合わせの実施	B	B	B	○校内委員会や巡回指導員、コーディネーターとの連携を進めることができた。 ●教室環境のユニバーサルデザイン化についての共有の機会の確保が不十分であった。	B	・いろいろな状況の児童に対して、丁寧に指導していただいている。引き続き支援して欲しい。	B	○年間を通して、コーディネーターや巡回指導教員、専門員との連携を図ることができた。 ●UDLの視点を全職員がもつ必要がある。	A	・多様な子供たちがいる中で、先生方が一生懸命に指導されていることに感謝します。 ・UDLの視点の基、個別最適な学びの実現を推進していく。	・担任や巡回指導教員、専門員やコーディネーターの連携をさらに図る。
	○エンカレッジルーム（特別支援教室）の活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校公開や保護者会においてエンカレッジルームの紹介の実施。	A	A	A	○エンカレッジルームについて児童への周知とともに、保護者にも学校公開や個別の面談をととして伝えることができた。	A	・一人一人の実態を保護者と共有していくことはとても大切だと考える。	A	○保護者の求めや学校からの見取りを共有し、特別支援教室につなげることができた。 ●退級を視野に入れた指導や目標の共有をする必要があった。	B	・保護者の理解を得ながら教育を進める難しさもあると思うが、粘り強く伝えていってほしい。	・校内委員会において、児童の実態把握を綿密に行い、特別支援教室の活用の在り方を検討していく。
	○副籍交流による連携の充実、交流の実施	・年間計画に基づいた交流	・学期ごと手紙等での交流の実施 ・年2回以上の交流会の開催	A	A	A	○副籍校との情報交換を行い、計画的な交流を進めることができている。	A	・他校との交流を通して、身に付く心情があると思う。大切にしていってほしい。	A	○学校、保護者との円滑な連携を図り、交流を進めることができた。	A	・学年が変わっても引き続き、交流を大切にしていってほしい。	・授業間の交流とともに学校行事の参観等、多くの機会の中で交流を進めていく。
不登校・いじめ対応の充実	○自己有用感・多様性の尊重を大切に魅力ある学校づくりの推進	・特別活動、道徳及び他教科と関連させた指導	・児童アンケートにおいて、80％以上が、学校生活・学習は楽しいと回答	A	A	B	○特別活動のねらいを共有し、自己有用感を高める指導を意識することができた。 ●他教科と関連させながら学校教育全体で魅力ある学校づくりを進めるという取組の向上が必要である。	B	・話し合うことや自分の意見を言うことは、とても大切なので魅力ある学校づくりを進めていってほしい。	A	○児童アンケートでは、91.8％の児童が学校が「楽しい」と回答することができた。 ○全学級で「楽しさ」を大切に、特別活動の学級会を推進した。児童の多様性を認めながら話し合いを行うことができた。	A	・学級会を各クラスで行っていることが学校公開や説明会でよく伝わった。今後も学校生活を楽しみながら、自分たちの考えを伝え合う場を大切にしていってほしい。	・学級会の継続的な推進を図り、一人一人の声を大切にした合意形成や意思決定ができるようにしていきながら、「楽しい学校」づくりとを進めている。
	○hyper-QUの活用	・hyper-QUの実施、分析、今後の指導の改善	・児童アンケートにおいて、80％以上が、学級の居心地がよいと回答	B	B	B	○全校児童のアンケート（前期）の平均が80.7％で、80％を上回ることができた。 ●アンケートを生かしたさらなる取組を進める必要がある。	B	・アンケートの結果をしっかりと分析し、児童の声を受け止めていってほしい。	B	○学級生活満足度は、全国平均より11.8％高く、学級経営に生かすことができた。 ●より明確な分析、一人一人の目々の変容を見取る必要があった。	B	・このような取組についても、結果をもとにできることを進めていくことが大切だと感じる。	・L-Gateを活用し、毎日の記録をとりながら、児童の変容を見取っていく。
	○教育相談の強化	・ふれあい月間の実施 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの積極的な連携 ・5年生へのSC面談の実施	・年2回ふれあい月間、年3回アンケートの実施 ・毎月の相談件数の確認	A	B	B	○計画的な取組を進めることができた。 ●SCやSSWとのより綿密な情報の共有、教職員間の教育相談に関する共有の機会の確保が必要である。	B	・専門家の意見も取り入れながら、よりよい教育を進めていってほしい。	B	○SSWとの連携を図り、必要に応じて相談体制を組むことができた。 ●SCの分掌設定や相談の時間・場の設定が不明確になっていた。	B	・いろいろな方々と連携していくことが大切なので、しっかりと情報共有をしていってほしい。	・取組の在り方やSC、SSWの役割などをより明確にし、教育相談体制を強化していく。
地域社会に開かれた学校の実現	○学校ホームページ、連絡メールによる学校生活の様子、配付文書の配信・充実	・学校日記による学校生活の様子の配信 ・ホームページの整理、各項目の更新 ・連絡メールによる文書の配信	・毎週の学校日記の配信 ・毎月の学校だより、学年だよりの配信	B	A	B	○学校ホームページでの学校の様子を配信、連絡メールでの文書の配信をすることができた。 ●ホームページのさらなる充実が必要である。	B	・学校の様子は、手紙でも伝わってくる。これからも学校の様子を伝えていってほしい。	A	○学校ホームページでの配信や連絡メールの活用を年間を通じて行うことができた。 ●保護者にとってより分かりやすい連絡の仕方を検討する必要がある。	A	・学校だよりを通して、学校の様子がよく分かる。ホームページやメールなどを活用していくとよいと思う。	・手紙と連絡メールとのバランスを考え、より分かりやすい通知の仕方を検討していく。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会での意見交換 ・保護者アンケートによる教育活動の評価	・年3回の学校評議員会の開催 ・年1回保護者アンケートの実施	B	A	B	○学校評議員会を行い、学校教育についての意見交換を進めることができた。 ●アンケートだけでなく、様々な機会から、教育活動の改善を進める必要がある。	B	・学校評議員会での意見交換は、学校の様子を知る一つの大きな機会なので今後も継続して欲しい。	A	○学校評議員会やPTA活動等、学校教育についての意見交換を進めることができた。 ●アンケート結果を分析し、スピード感をもって検討していく必要があった。	A	・学校評議員会を通して学校や子供たちの様子が詳しく分かる。明るく元気な子供たちなので安心していい。	・各種学校評価に関するアンケートの年間計画をさらに明確にし、取組を進めていく。
	○教育活動の充実に向けた地域人材の活用	・学校応援団、見守り隊の活動の実施 ・七夕集会での学校評議員による講話	・定期的な登下校の見守り、公園移動の際の見守り ・7月、七夕集会の実施 ・年1回の地域教育懇談会の開催	A	A	A	○校外委員、地域ボランティア（学校応援団、見守り隊）による積極的な児童の見守り体制をとることができた。 ○地域人材を活用した学習活動ができた。	A	・地域との関り、地域人材をこれからも充実させていき、子供たちの成長につなげていきたい。	A	○多くの方々の協力を得ながら、教育活動を行うことができた。 ○地域人材として積極的に協力していただける体制ができた。	A	・七夕集会では、子供たちに話をするのができて良かった。地域の力を学校にも使っていく必要がある。	・引き続き、たくさんの方々に学校教育についてお伝えし、協力をいただき教育活動を進めていく。
教育の特色ある展開	○道徳教育の充実のための全校道徳の実施	・全学年共通の指導の重点項目を明確にした授業の実施	・毎月の全校道徳の時間の実施 ・児童アンケートにおいて、80％以上が自分も相手も大切にできたと回答	B	B	B	○「あなたがだいじ、あいてもだいじ」を学習活動でも意識した取組ができた。 ●重点項目に対しての共通理解が十分でなかった。	B	・道徳の時間をさらに大切にして、心の教育を進めてほしい。	B	○児童アンケートでは、93％の児童が「友達を大切にすることができた」と回答した。 ●自分を見つめる時間ための振り返りの時間をより大切にすることがあった。	A	・相手のことも、自分のことも大切にする心情をこれからも育てていってほしい。	・道徳指導の在り方を再検討し、学校全体でさらなる充実を図る。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成、計画的なOJTの実施	・全教員年に1回の教員間の授業公開を実施 ・月に1回、OJT研修の開催	B	B	B	○OJTの機会を設け、研修を進めることができた。 ●各分掌による計画的なOJTの実施が必要であった。	B	・研修の機会を大切に、研鑽していただきたい。	B	○OJTの機会を対話やTeamsを通して進めることができた。 ●何が必要であるのかを精選しながら、計画的な取組を行う必要があった。	B	・先生方も忙しい中で、研修をされていることが分かる。1回1回を大切にしていってほしい。	・ともに学ぶ意識をもち、どのような研修を進めたらよいかを年間を通して計画し、実行していく。